

## 北朝鮮における「ハングル」のつづりかた

—『朝鮮語新綴字法』(一九四八年)をめぐって—

李 守

はじめに

ハングル(한글 Hangeul)とは朝鮮語をかきとめるため十五世紀なかばに考案され、訓民正音の名で公布された文字である。もっとも、この文字は歴史的に正音(정음 [Ch:ngum])とも諺文(한문 [Ch:mun])とも称されてきた。二十世紀初頭からじわじわとハングルという呼称がひろまり、いま大韓民国(以下、韓国)では、ハングルがこの文字にあたえられた世間一般のよびかたとして定着している。

それは「一」「大」「正」といった意味をもつ古語 한「ハン」と、文字を意味する 글「グル」からなる。命名したのは周時經(주시경 [Ju:si:ng])<sup>(1)</sup> 1876—1914)とされている。かれは、朝鮮民主主義人民共和国(以下、北朝鮮)および韓国で、現在それぞれ通用している、ふたつの正書法の基礎をつくった人物として知られる。

ただし、北朝鮮では現在この文字をハングルではなく、조선글 [Ch:osongul] (朝鮮文字)とよぶ<sup>(2)</sup>。ハングルという呼称は忌避されているよ

うである。「ハン」という音が韓国の韓 [han] を連想させるためであろうとおもわれる。北朝鮮では韓国はあくまでも「南朝鮮」であり、おなじく韓国でも北朝鮮はあくまで「北韓」である。

しかしながら、本稿が対象とする一九四〇年代から五〇年代にかけては、北朝鮮でもまだハングルが健在であった。いまではひとびとが口にすることもないであろうけれども、辞書には、ハングルが立項されている。社会科学院言語学研究所が編纂した『朝鮮語辞典』(一九八一年)は、ハングルにつきのような語釈と用例をほどこしている。<sup>(3)</sup>

ハングル「名」 《わがくにの文字》という意味でつかわれていたことは、<sup>(4)</sup>をまなぶ。(傍点筆者)

辞書のなかでも、北朝鮮では現在ハングルがほぼ死語にひとしくあつかわれていることがわかる。しかし、ともかく、ハングルという呼称がかつておこなわれていたという歴史的事実は、かろうじて、よみとることができ。これと関連する語彙として、「ハングル学校」がある。<sup>(4)</sup>

ハングル学校「名」 敬愛する首領金日成同志の配慮により、解放直後の工場、農場、漁村など、津々浦々に組織された文盲退治のための教育機関のひとつ。

日本の植民地支配を脱した直後の北朝鮮では、ハングルが国民教育の基礎と目された。識字教育は漢字ではなくハングルの普及を目的におこなわれた。この識字運動は政府の樹立（一九四八年九月九日）をあいだにはさむ、一九四六年から四九年にかけて、おもに十二月から三月末までの農閑期をあてて、くりひろげられた。男女の区別なく、満十二歳以上、五十歳未満の非識字者が対象とされ、かれらはハングルを毎日二時間以上まなぶよう義務づけられた。その結果、約二百三十万人のひとびとが、よみかきを習得したという。<sup>(5)</sup>

この識字運動と平行して、ハングルのつづりかたをめぐる研究もおこなわれ、一九四八年一月十五日、『朝鮮語新綴字法』（以下、『新綴字法』）の草案が発表された。成案がでたのは五〇年四月十五日である。しかし、この綴字法が全面的に実施された形跡はなく、一九五四年には『朝鮮語綴字法』があらたに公布され、『新綴字法』はいっしかその存在すら、わすれさられてしまった。

#### 一 わすれられた朝鮮語学者、金料奉

金料奉（김도봉 [Kindubon] 1889—1960?）は解放直後の文字改革に影響をあたえた人物とされている。北朝鮮の表記改革はかれが主導したとかん

がえられている。<sup>(6)</sup> 朝鮮語学者であるかれが政府の要職にあったのだから、かれの理論が改革に反映されたとかんがえるのは自然であろう。しかし、かれの関与が具体的にどのようなようにおこなわれたかについては、不明な点がおおい。

共産主義者であったかれは朝鮮独立同盟（のち、新民党に改編）の主席として一九四五年十二月、ながい亡命生活をおえて、平壤に帰還した。当時、朝鮮には共産主義者の集団が四系統あった。<sup>(7)</sup> 第一、朝鮮国内で運動を展開したグループ。第二、もともとソ連に居住し、ソ連軍の北朝鮮占領と同時に入国したグループ。第三、中国共産党中央の傘下で延安を中心に活動していたグループ。第四、中国共産党満洲省委員会のもとで抗日運動をしたあと、ソ連極東軍の指揮下に入ったパルチザングループである。金料奉は第三の集団に属していた。のちに、かれもふくめた「延安派」を粛清することになる金日成（김일성 [Kimilsong] 1912—1994）は第四の集団を代表していた。

金料奉は慶尚南道機張（現在、韓国）に生まれ、京城（現ソウル）で教育をうけた。<sup>(8)</sup> いくつかの団体に民族運動に参加するかたわら、私立学校の教員としてはたらいだ。京城では周時経に師事して朝鮮語研究にとりくみ、一九一六年には『조선 말본（朝鮮語文典）』をあらわしている。

朝鮮文字にあたらしくハングルという名をあたえた人物としても知られる周時経は、研究者として朝鮮語表記の規範化と文法体系の構築に力をそそぐと同時に、教育者として金料奉、崔鉉培（최현배 [Chwehjnbe] 1894—1970）などの後進をそだてた。かれらはのちに南北朝鮮にわかれて活躍することになる。いま、北朝鮮と韓国の正書法が多少の相違をみせながらも、たがいにおおきく逸脱せずすすんでいるのは、周時経によるところがおお

き。

金料奉は一九一九年、三・一運動に参加したあと、上海に亡命し、大韓民国臨時政府議政院の議員をつとめた。亡命中も教育事業にたずさわり、在上海朝鮮人子弟をおしえる仁成学校では、朝鮮語と歴史を担当し、校長をつとめた。かれは中国でも朝鮮にいる言語学者らと連絡をとりつつ、朝鮮語研究をつづけ、その成果は『김덕 조선 말본(精解朝鮮語文典)』(一九二三年)にまとめられた。

かれは高麗共産党結成にもからんだけれども、コミンテルンの一国一党原則により、同党が解散されるや、中国共産党に入るとともに、大韓独立党成立促成会にもかかわる。その後も、江陵、重慶、延安と拠点をうつして、朝鮮独立のため活動した。一九四二年、中国共産党の根拠地であった延安で、朝鮮独立同盟をつくり、主席として抗日連合戦線を構築しているさなか、日本の敗戦をむかえた。

金料奉が北朝鮮に帰還してまもない一九四六年二月八日、北朝鮮臨時人民委員会が創設された。委員長に金日成、副委員長にはかれが選出された。同年八月、新民党と共産党が合併して、北朝鮮労働党が結成されると、今度は委員長(副委員長、金日成)にえらばれるなど、かれは政治、行政の重職を兼務した。政権が正式に発足すると、ながく最高人民会議常任委員会委員長をつとめ、形式上の国家元首の座にあった。約二年間、金日成総合大学の総長もつとめた。

このように多忙をきわめたであろう金料奉が、北朝鮮でハングル研究にうちこめたとは常識的にかんがえられない。解放後のかれは朝鮮語学に関するまとまった著作ひとつのこしていない。研究者としての活動らしきものはといえは、講演だけである。ある雑誌のインタビューにこたえて、か

れはつぎのように発言している。<sup>(9)</sup>

平壤にもハングルを研究する団体がありますが、いそがしくてなかなか出席できません。上海にいたときはソウルとすこし連絡がありました。したが、延安にいったあと、とくに戦争がはじまると、革命運動にいそがしく、まったく時間がありませんでした。

この時期に北朝鮮でおこなわれた文字改革が、すべて金料奉の直接指導のもとで実現したかのような論調<sup>(10)</sup>は、再考の必要があるかとおもわれる。かれの理論は一九二三年に公刊された『김덕 조선 말본(精解朝鮮語文典)』に凝縮されている。表記改革の一応の到達点である『新綴字法』は、表音主義をすて形態主義をとるといふ原則をたてている。これはたしかに金料奉の方針と一致する。しかし、形態主義を原則とすることは、北であれ、南であれ、この時期における正書法をめぐる議論の主流であった。

また、『新綴字法』で新字が追加(後述)されたのは、単音の要素文字で一字がくみだてられる音節単位をつづりかたを分解することによって、ハングルを完全にローマ字化する地ならしだったとみることができる。実際、『新綴字法』巻頭言でそのことは明言されている。しかし、なるほどローマ字化は金料奉の年来の主張ではあったものの、これとてかれだけの独創ではなかった。しかも、南でおなじ課題にとりくんでいた崔鉉培を評して、あまり先をいそぎすぎているのではないかと、心配しているほどである。漢字廃止もローマ字化も、かならず実行すべきではあるが、段階をふまなければならない。漢字をいまずぐ廃止したら、朝鮮文化が停止してしまう<sup>(11)</sup>ものべている。

金壽卿がかれの還暦をいわず席で、『新綴字法』が金科奉の理論を具体化したものであると賞賛してはいる。<sup>(12)</sup> 金壽卿はかれの右腕と目された人物であった。<sup>(13)</sup> しかし、これとて顔面どおりうけとめないよう注意しなければならぬ。金科奉は当時、北朝鮮の最高権力者のひとりであり、四半世紀をこえる亡命生活をおくりながら、ハングル研究と独立闘争に邁進した民族の英雄であった。この時期の金科奉は、表記改革と関連して、周時經以来、脈々とつづけられてきたハングル研究を象徴する存在として、わかつての研究者たちに助言をあたるくらいの役割をはたしていたにすぎないのではないかとおもわれる。

のちに肅清されたため、従来のつづりかたから突出した表記案が、すべてかれの責任に転嫁されたとかんがえられるのではないか。『新綴字法』はあくまでも「朝鮮語文研究会」にあつまつた学者たちの合作とかんがえたほうがよい。金科奉の文字改革案は『김두 선 말본(精解朝鮮語文典)』(一九二三年)以降、活字にされたものがとほしい。かれの意向だけが『新綴字法』に全面的に反映されていたとは、現時点では断定を留保したほうがよいとおもわれる。

## 二 「朝鮮語文研究会」と機関誌『朝鮮語研究』

当時、表記改革の拠点は「朝鮮語文研究会」(以下、「語文研究会」)であった。同研究会は一九四六年七月、北朝鮮人民委員会の後援をうけ、まずは民間団体として発足した。四七年二月、北朝鮮人民委員会決定第一七五号により改編され、設立されてまもない金日成綜合大学に本部をおくことになり、文法、綴字法、漢字処理などの問題について審議をかさねた。

政府樹立後、一九四八年十月二日の閣議で、「語文研究会」は教育省に移管されることになった(内閣決定第十号)。「新綴字法」は政権が発足して、同研究会が教育省に移管される以前、金日成綜合大学で、四八年一月十五日に、その草案がつくられた。

政府に移管されたあとの「語文研究会」には、文法と辞典を編纂する専門委員会がもうけられ、委員長に李克魯(이극로 [rikunro] 1893-1978)が起用された。かれは慶尚南道宜寧(現在、韓国)にうまれた。<sup>(14)</sup> 金科奉や崔鉉培とは同郷人である。一九二〇年、中国上海の同済大学予科を終了後、ドイツに留学し、二七年、ベルリン大学哲学科を卒業した。帰国後、「朝鮮語学会」(一九二一年創立)では、朝鮮語辞典編纂執行委員(一九二九年)、朝鮮語綴字法制定委員(一九三〇年)、標準語査定委員(一九三五年)、さらには幹事長(一九三六年)をつとめるなど、同会の活動をささえた。四二年十月、朝鮮語学会事件で検挙され、懲役六年の宣告をうけ、咸興刑務所で服役中、日本敗戦をむかえ釈放された。

かれは解放後、大韓民国成立まえの一九四五年から四八年までのあいだ、しばらく南朝鮮にとどまり活動した。「朝鮮語学会」に復帰し、復刊された『ハングル』誌に論文を発表するかたわら、四六年にはハングル公布五百周年をいわず記念事業を委員長としてきりもりした。四八年二月、「南北諸政党・社会团体連席會議」に出席するため平壤入りし、そのまま北朝鮮に残留する。政権発足(第一次内閣)と同時に、無任所大臣に起用され、教育省に移管された「語文研究会」でも委員長をつとめるなど、終生、北朝鮮の言語政策に指導的な役割をはたした。

「語文研究会」は標準文法の制定、辞典の編纂、雑誌発行と出版事業を当面の課題としてかかげた。<sup>(15)</sup> こうして一九四九年四月に創刊されたのが

『朝鮮語研究』であった。同誌は一年三カ月のあいだに通巻十一号が発行された。朝鮮戦争により休刊し、その後復刊することなくおわる。同誌に寄稿された論文のテーマは、ハングル専用と国語純化、古典の注釈、方言資料の収集、ソビエト言語学理論の紹介など、多岐にわたっていた。

この時期、『新綴字法』が発表されたあとも、北朝鮮の出版物における表記は、おおむね一九三三年に「朝鮮語学会」が発表した『한글 맞춤법 통일안(朝鮮語綴字法統一案)』(以下、『統一案』)を準用していた。これは韓国でも同様であった。したがって、『新綴字法』が発表されるまで、朝鮮半島の南北では、表記がほぼ統一されていたことになる。朝鮮語のつづりかたが南と北で「異質化」するのは、この『新綴字法』からである。<sup>(16)</sup>

『新綴字法』はこの時点では草案にすぎないから、「語文研究会」の機関誌である『朝鮮語研究』も、まだ表記を変更してはいない。誌面はハングル専用、漢字ハングルまじり、さらには『新綴字法』というふうに乱雑であった。発表されて一年以上たつ『新綴字法』は、まだ実施されてはいなかった。

『朝鮮語研究』創刊号に掲載された論文のなかに、『新綴字法』の語句は、一箇所しかみあたらない。<sup>(17)</sup> しかも、ただその存在にふれただけの、そっけないものである。そもそも、創刊の辞をかけた李克魯さえ、ひとこともそれに言及していない。このころは『新綴字法』を審議、検討する、実施にむけた下準備の段階にあっただけであろう。第五号(一九四九年八月)から、「朝鮮語綴字法の基礎」が四回にわたって掲載され、変化がうまれる。

一九四九年十二月号(第一巻第八号)から『新綴字法』関連の記事が格段にふえる。同号には「朝鮮語新綴字法에 關한 學術 報告 講演會 記錄」

が掲載された。李克魯「朝鮮語新綴字法の基本原則」、申龜鉉「朝鮮語新綴字法の歴史的意義」、金壽卿「文法編集의 基本方向과 朝鮮語新綴字法」というように、『新綴字法』の普及を既定の路線とした内容であった。<sup>(18)</sup>

この第一巻第八号から『朝鮮語研究』がはっきりと『新綴字法』PR誌の性格をおびてきた。『新綴字法』が成案として刊行されたのは一九五〇年四月十五日のことである。『新綴字法』巻頭言には、「語文研究会」の沿革、および四九年七月二十六日の委員会で、全員の承認がえられた経過をしるしてある。<sup>(19)</sup> しかし、朝鮮戦争(五〇年六月二十五日)がはじまると、表記改革どころではなくなった。そして、戦後いち早く、五四年に『新綴字法』にかわって『朝鮮語綴字法』が発表されると、北朝鮮ではその存在さえ公式の記録から抹消されてしまう。

金日成綜合大學から出版された『主体의 朝鮮語研究50年史』(一九九六年、平壤)にも『新綴字法』の語句はみあたらない。唯一、『朝鮮語文法』(一九四九年)について解説するくだりで、タイトルはふせたまま、『新綴字法』に言及している。いわく、『朝鮮語文法』はあたらしい言語規範を確立するのに一定の役割をはたしたが、一部の学者が功名をあせり、独断でつくりだした六字母を採用している点が「致命的弱点」であった。「反動的」「反民族的」な六字母が採用されていたら、南北で表記のまとまりがくずれ、民族統一を阻害することになりかねなかった、と。<sup>(20)</sup>

六字母を新規採用した表記法が『新綴字法』をさすことはいうまでもない。『朝鮮語文法』(一九四九年)とは、全編がこの『新綴字法』にもとづいて印刷された希少な書物であった。なぜ『新綴字法』が匿名のまま批判され、それによってかかれた『朝鮮語文法』には一定の評価があたえられ

ているのだろうか。

文法編纂は教育省に移管された「語文研究会」が当面の課題のひとつとしていた。編修委員には、李克魯、金壽卿、洪起文など、南から入北した人物たちが名をつらねていた。かれらのなかには李のように「朝鮮語学会」(韓国では四九年九月五日から「ハングル学会」と名称を変更していた)に所属していたものもいた。『朝鮮語文法』を全否定できないのは、かれらのたちばを考慮してのことかもしれない。

そもそも金料奉は一九四七年、表記の全面的な改革は統一後の課題であるとのべていた。<sup>(21)</sup>かれは南北いずれか一方だけの表記改革には慎重な姿勢をしめしていた。かれのかがえかたが一年のあいだに変化したかどうかは、いまのところ不明である。

だが金料奉の失脚と『新綴字法』の否定とは因果関係をもつものとかんがえられがちである。これは金日成がのちに言語学者たちとの談話で、<sup>(22)</sup>「かれらの文字改革」を批判したことに影響されたものとおもわれる。金料奉に言及こそしていないが、「かれらの文字改革」が『新綴字法』をさすことは、文脈からあきらかである。しかしながら、文脈からは「文字改革」が批判されたから金料奉が失脚したのか、失脚したから「文字改革」が批判されているのかが不明である。また、『新綴字法』の否定(一九五四年)から金料奉の失脚(五八年)まで、四年間の空白にながらおきていたのかも、現時点ではわからないことがおおい。

### 三 表音主義と形態主義

ここで『新綴字法』の内容について検討してみよう。『新綴字法』は総

論四項、各論五章、計六四項で構成されている。総論は(一)つづりかた、

(二)発音、(三)わかちがき、(四)標準語、(五)よこがき。各論は第一章字母、第二章語音、第三章文法、第四章語彙、第五章文章からなる。<sup>(23)</sup>

全編の体裁や用語のつかいかたなどは、従来の『統一案』(一九三三年)と大差はない。表音ではなく形態を表記の原則としている点も共通している。決定的なこととなるのは、つぎの三点に集約される。第一、漢字音の語頭にあらわれるㄱ、ㅋ、ㆁをハングル表記に反映させる。第二、合成語の表記に「ㅏ」を使用する。第三、変則活用を新規文字の採用によって、整合的に表記する。<sup>(24)</sup>

第三が、従来のつづりかたからもっとも突出したところであり、これのちに批判のまとなった。これは用言活用における形態音韻論的交替を、新造された六文字で、<sup>(25)</sup>安定的に表記しようとする工夫したものである。一例をあげると、動詞의 ㅁㄷㅏ「埋める」と ㅁㄷㅏ「尋ねる」は基本形では同音異義語である *muta*。語幹末はどちらも閉鎖音 ㅁㄷ (破裂をとまわらない)でおわる。しかし連用形に活用すると、前者は *[mudɔ]*、後者は *[mudɔ]* となる。現在、南北ともに、それぞれ를 ㅁㄷㅏ「埋め」、ㅁㄷㅏ「尋ね」というふうに、ある程度表音的につづる。しかし、これではハングル表記の基本原則である形態主義をしりぞけて、表音主義に妥協したことになる。

これに対して『新綴字法』では、音節末では ㅁㄷ、母音のあいだでは ㅁㄷと発音される「ㄱ」を、「ㄷ」とかきあらためるようさだめている。つまり、「ㄷ」は音節の開始部 (*Onset*) では ㅁㄷ、末尾 (*Coda*) では ㅁㄷと発音される、あたらしい文字なのである。六字母の追加は『新綴字法』の巻頭言でも明言されているように、母音字と子音字を 타테・ヨコひとかたまりに配置して一音節がしめされる従来のつづりかたを分解するための布石で

あった。漢字廃止が前提であることはいうまでもない。ところが、『新綴字法』(一九四八年)のつぎに発表された『朝鮮語綴字法』(一九五四年)はこの六字母についてまったく言及なしである。結局、六字母はひろくつかわれることなく、草案のときからかぞえても、六年八カ月の短命におわつた。

第二も朝鮮語の複雑な形態音韻論にかかわる表記の問題である。一例をあげよう。한자/hantaは「漢字」、손자/sonjaは「孫」の意である。/ntʃa/の部分こそ共通するものの、実際の発音は「漢字」が hanʃaj、<sup>25)</sup>「孫」は [sonʃaj] となる。おなじ文字「스」が類似した環境(まえに「[n]」うしろに「[a]」で、ちがう音になる ([ʃaj] と [ʃaj])。この不整合をととのえるため、補助記号「<sup>25)</sup>」が採用された。「孫」はそのまま 손자 とかかれ、「漢字」は 한「漢」の右肩に補助記号「<sup>25)</sup>」が挿入される。この方式は六字母よりは延命したけれども、『조선말 규범집(朝鮮語規範集)』(一九六六年)から、やはり廃止された。南北の正書法はその分たがいに接近したことになる。

北朝鮮でいまなお健在なのは、第一の規則だけである。これは朝鮮語の語頭音 [ɲ] と [ɳ] にかかるとの制約(頭音法則)を表記にどう反映させるかという問題にかかわる。[ɲ] 音について解説すると、つぎのようである。朝鮮語の語頭では、口蓋化した ɲ/ɳ 音は消失する。たとえば語頭の漢字音 [ɲi] [ɳaj] [ɳɔj] [ɳɔj] [ɳɔj] [ɳɔj] といった音は、それぞれ [i] [aj] [ɔj] [ɔj] [ɔj] [ɔj] となって実現する。

問題はそれをハングルの表記にどう反映させるかである。発音どおりかれば、이, 야, 예, 요, 유となる。韓国では基本的にこの方式を採用している。しかし、この方式では、つぎのような不整合が生じてしまう。

이해(理解)と물리(物理)、예의(禮儀)と의례(儀禮)など。北朝鮮では、語頭でも語中でも, 리, 라, 러, 레, 료, 류と表記するから、こうした不整合は生じない。리해(理解)と물리(物理)、례의(禮儀)と의례(儀禮)。したがって、おなじく「李」さんでも、韓国では「이」、北朝鮮では「리」とかかれるわけである。

一方、口蓋化しない [ɲ] 音は語頭で [ɳ] となる。韓国方式をとると、つぎのような表記のくいちがいが生じる。노동(労働)と근로(勤勞)、내일(来日)と장래(將來)など。北朝鮮では、どちらも로(勞)と근로(勤勞)、래일(来日)と장래(將來)というふうになり、すっきりと表記される。<sup>26)</sup>

口蓋化した [ɲ] 音も語頭では消失する。したがって、[ɳi] [ɳaj] [ɳɔj] [ɳɔj] [ɳɔj] [ɳɔj] などは、語頭では [i] [aj] [ɔj] [ɔj] [ɔj] [ɔj] と変化する。そのため、語頭の「女」は「여」とかかれるのに、語中の「女」は「녀」とかかれなければならない。たとえば, 여성(女性)과 남녀(男女)。一方『新綴字法』によれば、どちらも「녀」と表記できる。

韓国と北朝鮮はともに周時經のながれをくむ綴字法を採用しているから、表音主義ではなく形態主義を原則としている。同一の形態素はつねに同一表記されるのが理想である。しかし、こと語頭音の表記に関するかぎり、形態主義の原理は北朝鮮のほうが徹底している。『新綴字法』は表記に頭音法則を反映させないばかりでなく、実際の発音も文字にあわせることを規定している。<sup>27)</sup>語頭の 리を [ɳ] と発音するのではなく、文字どおりの音価で [ɳ] と発音せよというのである。

『統一案』(一九三三年)が頭音法則に関して表音主義に譲歩していることを北朝鮮の学者はつぎのように批判する。<sup>28)</sup>語音は発展するものであり、

語頭のㄷやㄹを永久に発音できない音であると断定するのは、人民を侮辱した「反動的」いひぐさである。教育が普及すれば語頭のㄷやㄹの発音くらい可能になるものである、と。たしかに、教育の普及（とくに英語の）によって、韓国でも若年層ほど、語頭のㄷやㄹを自由に発音できるようになっている。ちかい将来、この事実をふまえて、韓国でも李さんが「이」ではなく、「리」とかかれ、ㄷと発音される日がくるかもしれない。<sup>(29)</sup>

ところで、そもそも北朝鮮には、教育にたよるまでもなく、語頭のㄷとㄹが発音されやすい条件があった。平壤をとりまく平安道一帯ではなされている方言（西北方言）の話者は、もともと語頭のㄷとㄹが発音できる。平安道のことばは、そのほかの方言とちがって、頭音法則があてはまらないのである。京城帝大在職中に同地方の方言を調査した小倉進平の報告によれば、ㄷ/ㄹを頭音に有するつづりのうち、[nɔj, ɲɛj]は京城地方では、[ɔj, ɲɛj]と変化するが、平安道ではおおむね [nɔj, ɲɛj]となり、語頭のㄷ/ㄹは、京城地方ではㄷとなるが、平安道では原音のままに発音される。<sup>(30)</sup>

形態主義を徹底したから、頭音法則が否定されたのか、西北方言を規準とみなしたから、頭音法則が否定されたのか、くわしいことはわからない。おそらく、ふたつの条件が合致したのだろう。六字母は実施されもせず、合成語表記の「ㄷ」記号が廃止（一九六六年）されても、頭音のㄷ/ㄹ/ㄷ/ㄹ表記だけが一貫してまもられたのは、平壤が北朝鮮の首都であるからだったとおもわれる。<sup>(31)</sup>

## むすびに

朝鮮戦争の終結（一九五三年七月）後、『朝鮮語綴字法』（一九五四年）が公布されたころ、韓国でも、やはりハングルをめぐる論争がおこなわれていた。<sup>(32)</sup> 李承晩大統領は、複雑な『統一案』式つづりを廃止し、綴字法をもっと簡素化すべきだと談話を発表（四九年十月）した。ハングル学会の形態音韻論的表記から、かつておこなわれていた音韻論的表記にもどすことが骨子であった。朝鮮戦争中も議論がつづき、文教部長官の更迭にまで発展したこの騒動は、しかし、五五年九月に大統領が断念を表明して終息した（ハングル波動）。

北朝鮮と韓国の言語問題に対するとりくみかたは対照的である。韓国では、おもに学者や民間団体が積極的で、政府が直接これに関与することはすくない。李承晩はまれなケースに属する。一方、北朝鮮では政府が積極的に政策をうちだす。

北朝鮮でおこなわれた表記改革を整理すると、つぎのようになる。解放後、四七年まではおおむね『統一案』にのっとり、ハングルと漢字を混用していた。四八年一月の『新綴字法』からしだいにハングル専用にかたむきはじめ、『朝鮮語綴字法』（五四年）からそれが本格化し、短期間のうちに漢字が廃止された。その後、六六年からは『조선말서법집』（朝鮮語規範集）が発表され、平壤周辺のことばを「文化語」と規定し、中部方言（韓国の標準語）とのちがいをきわだたせ、今日にいたる。

進行の速度こそちがうけれども、南北ともハングルをめぐる政策という点では、ほぼおなじ軌跡をたどってきた。現在、韓国でも北朝鮮でも、漢



字は教室のなかの文字であり、生活に根ざした文字ではなくなりつつある。社会のハングル化はほぼ完了したとみてよい。最近の韓国では、政党名から漢字がきえはじめている(『열린우리당(ひらかれたウリ党)』、「한나라당(ハンナラ党)」)。有権者の心をひきつける力を漢字ではなく、ハングルにもとめた結果であろう。漢字は今後ともほそぼそとつかわれつつあるにしても、しかし復活はありえないとおもわれる。

そこでハングルのつづりかたを、どのように改良していくかが問題としてのこる。南北どちらの正書法も形態主義にもとづいている。しかし、どちらも厳密な意味で形態音韻論的であるとはいえない。それは北のほうがよりラディカルであるかもしれないが、ちがいは五十歩百歩である。音韻論的表記とのおりあいをつけなければ、韓国でも北朝鮮でも、いまのところ朝鮮語の表記は不可能である。したがって変化の実相にあわせた表記の改良はこれからもつづけられていくのである。

#### 註

- (1) 高永根「한글의 由来에 對하여」金敏洙・高永根・李翹燮・沈在箕共編『國語와 民族文化』集文堂、ソウル、一九八四年。
- (2) 「ハングル」『朝鮮を知る事典』平凡社、一九八六年。
- (3) 『現代朝鮮語辞典』第2版、科学・百科事典出版社、平壤、一九八一年。
- (4) 同右
- (5) 박길만「言語理論研究史」김영환・권승모編『主体의 朝鮮語研究50年史』金日成綜合大学朝鮮語文学部、平壤、一九九六年、所収(圖書出版 博而精 ソウル、影印本、二〇〇一年)。
- (6) たとえば、金敏洙「北韓의 主体思想과 言語政策」『金正日時代の 北韓言語』太学社、ソウル、一九九七年、所収、一二頁。ならびに高永根「北韓의

言語文化」서울대학교出版部、ソウル、一九九九年、二七六―七頁。

- (7) 徐大肅「金日成と金正日 革命神話と主体思想」(古田博司訳) 岩波書店、一九九六年、五四―五頁。鐸木昌之「北朝鮮 社会主義と伝統の共鳴」東京大学出版会、一九九四年、二九頁。

- (8) 金科奉の経歴については、沈之淵『이희진 革命家の肖像 金科奉研究』인간사랑、一九九三年。および金壽卿「朝鮮語學者로서 의 金科奉先生」『朝鮮語研究』第1巻第3号、一九四九年六月(高永根編『朝鮮語研究1』圖書出版 亦業、影印本、二〇〇一年)、参照。

- (9) 「会见記 金科奉先生과의 六分間」沈、前掲書、資料編 所収(初出は『民声』第3巻1・2合併号、一九四七年二月)。

- (10) (6) に同じ。

- (11) (9) に同じ、四七五頁。

- (12) 金壽卿、前掲、七頁。

- (13) 金壽卿(김수경 [Kimsugjin]) は威鏡道(現在、北朝鮮)出身、生没年未詳。かれは植民地時代、学徒動員をのがれるため、京城帝大で無給助手をしていたという。言語学者である河野六郎、小林英夫といたしく、河野とは一緒に雑誌をだしていたという。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語はもちろん、中国語、モンゴル語、ギリシヤ語、ラテン語などもできた。

解放後しばらく南にいたが、金日成綜合大学の創立に参加するため、一九四六年八月、平壤入りし、朝鮮語文学部朝鮮語学講座を担当した。ソビエト言語学の紹介はほとんどかれの手でおこなわれたらしい。金科奉の失脚とともに、かれにも危険がせまったが、おおくの弟子たちの嘆願により、それはまぬかれたという。

ちなみに、前記『主体의 朝鮮語研究50年史』の奥付に、「審査 博士 김수경」とあるが、この 김수경 が金壽卿と同一人物であるかは不明。小林英夫「白いハト」同「教える子」『小林英夫著作集10』みすず書房、一九七七

年、所収。菅野裕臣HP『百孫朝鮮語談義』<http://www.han-lab.gr.jp/~kanno/> 参照。

(14) 李克魯の経歴については、『韓国民族文化大百科事典17』韓国精神文化研究院、一九九四年。

(15) 編集部「朝鮮語文研究会の事業展望『朝鮮語研究』創刊号、一九四九年四月(図書出版 亦楽、影印本、二〇〇一年)、一三三―八頁。

(16) 正書法の差違が民族語の「異質化」をまねいたとの多分に情緒的な批判があるが、それはあまりにも性急な断定であり、これくらいの差違は努力しただいで克服できるであろうとおもわれる。キム・ハス「南北朝鮮間の言語問題」(イ・ヨンスク訳) 三浦信孝・糟谷啓介編『言語帝国主義とは何か』藤原書店、二〇〇〇年、所収、三五六頁、参照。

(17) (15) に同じ。

(18) 『朝鮮語研究』第一巻第八号、一九四九年十二月(図書出版 亦楽、影印本、二〇〇一年)。

(19) 「巻頭言」『朝鮮語新綴字法』朝鮮語文研究会、一九五〇年(高永根編『北韓 在外僑民の綴字法集成』図書出版 亦楽 影印本、二〇〇〇年)。

(20) 권승모「朝鮮労働党の言語政策과 그 빛나는 實現」김영환・권승모編、前掲書、所収、一四頁。

(21) (9) に同じ。

(22) 「チョソン語を發展させるためのいくつかの問題——言語学者たちとの談話——」(一九六四年一月三日) チョソン労働党中央委員会党歴史研究所『キム・イルソン著作選集4』外国文出版社、一九七一年。

(23) (19) に同じ。

(24) 高永根、前掲、『増補版 北韓の言語文化』、二八頁。ならびにコ・ヨンジン「北朝鮮の初期綴字法について」同志社大学言語文化学会『言語文化』第3巻第3号、二〇〇一年一月、四二―二頁、参照。

(25) 二文字は音韻変化の結果つかわれなくなったもの。四文字は類似した音をしめす文字に修飾をほどこしたものである。印刷の都合上、活字にしやすいものを例にあげ説明する。

(26) 労働党の創設にあたって、党名を「노동당」とするか、「로동당」とするか問題となったという。박재호「言語規範研究史」、김영환・권승모、前掲書、所収、八七頁。

(27) (23) に同じ、第4章第1節42項および43項、四二―二頁。

(28) 박재호、前掲、八八―九頁。

(29) 少数だが、すでに実践しているひともいる。

(30) 小倉進平『朝鮮語方言の研究』下巻、岩波書店、一九四四年、二五七―六〇頁、参照。

(31) 厳密に言えば、一九七二年の憲法改正まで、北朝鮮の法定首都はソウルであった。

(32) コ・ヨンジンは、『朝鮮語綴字法』の登場を韓国で議論されていた「ハングル波動」との関連で理解する必要をのべている。コ、前掲、四二七―八頁。

\* 本稿でとりあげたハングル表記の語句は可能な限り漢字表記とした。その際なるべく正字体ではなく略字体をもちいた。

(い) すう 総合教育センター